

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

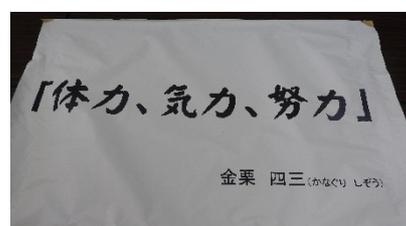
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

大川市立大川中学校

1 実践テーマ	【I・III・V】
2 実施対象者	大川市立大川中学校 1年生81名 全校生徒 227名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（保健体育、総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名 （部活動中体連大会激励会や始業式での講話）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>① パラリンピアンを講師に招き、努力することの大切さ、あきらめない心、フェアプレーの大切さを学ぶ。</p> <p>② パラリンピック競技の体験を健常者・障がい者合同で行い、他者への共感や思いやりを育てる。</p> <p>③ オリンピックやパラリンピックは国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解させる。</p> <p>④ オリンピアン・パラリンピアンの活躍を通じて、努力の尊さや他者への尊敬等のスポーツの価値を身につける。</p>
5 取組内容	<p>(1) 全校生徒への講話</p> <p>① 中体連大会部活動激励会</p> <p>i) 夏季大会（6月27日）・・・リオ大会など三大会でメダルを獲得した水泳の松田丈志選手のインタビュー動画を視聴後、スポーツの世界で結果を出すためには、豊かな人間性やたゆまぬ努力が必要であることを伝えた。「どんな環境でもあきらめずにみんなと協力することの大切さを学んだ」「自分のことだけでなく周りの人のことを考えることを大切にしたい」といった生徒の感想がみられた。</p>



ii) 新人大会(10月10日)・・・プロ野球の松井秀喜さんと菊池雄星選手が、日頃心懸けていることを紹介し、「特別なことをするのではなく、毎日やるべきことを続けることの大事さ」を伝えた。

②始業式での講話

日本人が始めて参加した第5回オリンピックのマラソンの金栗四三(熊本県出身)氏の苦勞とその後の活躍について講話した。熱中症に苦しみ完走できなかったことや正月の風物詩である箱根駅伝を発案したこと、女性のスポーツ振興に尽力したことが現代日本のスポーツの充実発展に貢献していることを伝えた。さらに、金栗の残した言葉に、「体力、気力、努力」があり、この言葉のように2学期も何事にも粘り強く取り組んでいくことの大切さを話した。

(2) 保健体育科授業(1年生2学級 81名 11月27日)

单元名 「国際的なスポーツ大会とその役割」

主眼・・・スポーツには、さまざまな国際大会があり、オリンピックやパラリンピックは国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解させる。

①クイズに答えながら、オリンピックやパラリンピックの歴史等を知る。

②オリンピックやパラリンピックの開催される理由について考える。

i) 自分の考えをワークシートに書く。

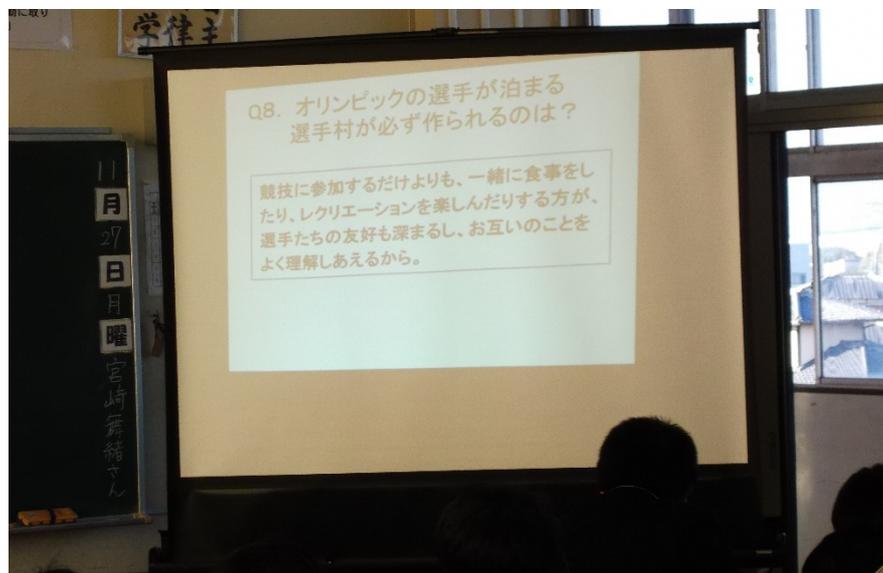
ii) 班で話し合い、意見を発表する。



(各班の意見)



(小集団の話し合い)



(オリ・パラのクイズ)

(3) 総合的な学習の時間 (1年生2学級 81名 1月23日)

单元名 「車いすバスケットボールを体験しよう」

目 標

- ・パラリンピアンを講師に招き、努力することの大切さ、あきらめない心、フェアプレーの大切さを学ぶ。
- ・パラリンピック競技の体験を健常者・障がい者合同で行い、他者への共感や思いやりを育てる。

流れ

① 講演会

シドニーパラリンピック銅メダリストの八島京子さんを含め7名の車いすバスケットボールの選手を招き、「努力すれば必ず目標は達成できる」と題した講話を行なう。生まれながらの障がいでも車いすで生活する中で目標を持って努力することの大切さや「車いすの生活には工夫が必要だが健常者の生きる知恵と同じ」であることを講話していただく。実物のパラリンピック銅メダルに触れるたことは生徒の印象に残った。



(銅メダルをかけて)



(講演会)

② パラリンピアンによる車いすバスケットのデモンストレーション

パラアスリートによるハイパフォーマンスを生で見ると、迫力とスキルの高さを実感した。「ドリブルしながら進む技術やシュートの正確さ」に驚き、楽しく競技をしている姿に応援の拍手が起きた。障がい者のスポーツに対する見方が変わっていった。



(意外に軽い)



(動きが速くて正確)

③ 車いすバスケットの体験

中学生同士での車いすバスケットボールの体験ゲームを行なった。体験することで、「楽しさ」と「難しさ」を頭で理解するのではなく体を使って実感できた。講師と参加者(生



徒や教職員)が一体感を持てた。

(終了後の様子)

選手のみなさんの周りに輪ができ、グッと距離が近づきました。いろんな質問をしていました。

やって良かった!

## 6 主な成果

- ① 体験することで体を使って理解することができた。
- ② パラリンピックに対する興味関心が高まった。
- ③ オリンピアンやパラリンピアンがアスリート生活を通じて経験してきた夢や目標をもつ価値と重要性を感じ取れた。
- ④ 障がいの有無に関係なく、全ての人が可能性をもっていることに気づき、可能性に挑戦することの素晴らしさを実感できた。
- ⑤ パラスポーツを進める上での課題を知ることができた。

〈 生徒の体験後の感想 〉

『車いすバスケット』を見て本当に『あきらめない心を持つ』ということ学びました。足が動かせないけれど、車いすバスケットしている姿はとてまかっこいいなと思いました。生活でも大変だけど、自分に合った工夫をされていてすごいと思いました。『何事にもやれると思うとできる』ことをしっかり学べて本当に良かったです。』(1年生女子)

「はじめて車いすバスケットを見ました。テレビで見た時は、『危ない』『こわそう』など思っていて、何も知らなかったけど、講演を聴いて、車いすの操作の仕方がよく分かりました。実際にやってみると、思った以上に簡単に操作できたけど、シュートやパスがとばなくて難しかったです。でも、とても楽しくてやれて面白かったです。転んだときの立ち方を見られるとは思ってなくてびっくりしました。」(1年女子)

「話を聴いて、障がいがあるからって下向きには思っていないと

	ということが分かりました。」(1年男子)
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>① 全校生徒に向けての著名なオリンピックや郷土に関係のあるオリンピックを取り上げることで、興味関心を高め、その後「オリンピック・パラリンピックの役割」を探る授業を組み、最後に「車いすバスケットボールの体験」をメインにスモールステップで取り組んだ。</p> <p>② 事業を計画する中で、地域にコーディネートしてくれる人材を見つけ、自治体や教育委員会との連携の糸口が見られた。</p> <p>③ 体験の事業は1年生だけの対象になり盛り上がりには欠けるのではないかと心配したが、人数が少ないことでほとんどの生徒が体験できることになり、かえって盛り上がった。</p>
8主な課題等	<p>① 単発の授業になりがちであること。年間指導計画に位置づけて計画的に横断的に行なう必要がある。(カリキュラムマネジメント)</p> <p>② 体験事業等は、季節を十分に考え設定する。(インフルエンザ等)</p> <p>③ 体験の充実のためには、人数に限られること。</p> <p>④ 予算とコーディネーターの確保</p>
9来年度以降の実施予定	<p>① 年間指導計画に位置づけて実践を進める予定である。</p> <p>② 来年度も継続的に本事業に取り組みたい。保護者や地域・小学校を巻き込んだ実践にしたい。</p>